2022/4/11　　全国市町村研修財団
第1回市町村議会議員特別セミナー

「日本の少子化対策はなぜ失敗したのか」

ー コロナ禍が格差を拡大させ、少子化を加速するー

山田昌弘　Masahiro Yamada

（中央大学・文学部・教授）

0. 自己紹介

山田昌弘　　1957年生まれ、64歳

家族社会学・研究者、東京大学大学院修了、
東京学芸大学教授を経て、2008年より中央大学文学部教授
パラサイトシングル、格差社会、婚活　の名付け親

研究領域　家族（結婚、恋愛）　ジェンダー、若者を 「お金」と「愛情」の領域から研究している

近著に『日本は少子化対策になぜ失敗したのか』（光文社新書）『結婚不要社会』『新型格差社会』（朝日新書）『少子社会日本』（岩波新書）など

公職　内閣府男女共同参画会議民間議員、　東京都社会福祉審議会委員
北区男女共同参画審議会委員　、内閣府人生100年時代の結婚・家族を考える研究会・座長など

読売新聞、「人生案内」回答者　2008年ー

0．はじめに　人口動態統計、国勢調査の衝撃

＊　2020－1年　人口動態の衝撃（人口動態調査）
＊結婚は大きく減少　２０１９年は令和婚（5月1日）、１並び婚（11月11日）で増
2020年の結婚数大幅減少（2並び婚ー令和2年2月２日は多かったが）
2020年 52万5490組　2019年　59万9007組　2018年　58万6481万組

＊　出生数も減少　　コロナの影響が出るのは今年の1月以降
史上最低を更新（コロナ以前の妊娠にもかかわらず）
2020年　84万0832人　2019年　86万5239人　2018年　91万8400人

＊　2021年ー結婚の減少続き、出生の減少傾向は加速（人口動態速報）確定数より4%ほど多く出る
2021年　出生　84万2897人　　2020年　87万2683人
　　婚姻　51万4242 組　　53万7583組

＊　2020年　未婚率上昇の衝撃（2020年国勢調査　不詳を案分処理）
２０２０年　３０－３４歳未婚率　男性５１．９%、女性３８．５%
　　４７．１%　　３４．６%　(2015　不詳含まず)

0．はじめに　少子化は「日本社会の構造」に関わる問題

■　少子化は、結婚、出産だけの問題ではない
平成時代　世界の中で日本で起きたトレンド
①　少子高齢化（人口の減少始まる、高齢化率２８%世界最高）
②　経済停滞（Japan as NO1から世界競争力34位へ）（給料が上がらない）
③　格差社会の進行（非正規雇用者の増大、収入が少ない若者増大）
④　男女共同参画の停滞（ジェンダーギャップ指数120位、女性活躍後進国）
この４つのトレンドは、相互に関連している。
＊　高度成長期に形成、バブル期に確立した日本特有の「制度、慣行、意識」への固執

0．はじめに　少子化は「日本社会の構造」に関わる問題

親の意識が変わらない例

1．人生相談（読売新聞）から　ー　60代女性（主婦）「20年前、娘が連れてきた男性の収入が高くなかった。娘のためにと、大反対して諦めさせたが、その後よい縁がなく、娘は40代独身、このままだと将来が心配、どうしたらよいか？」

2．地方親同居未婚者調査（約20年前）から　60代女性（農業）「私は中卒だけど、短大出た私の知り合いはお金持ちの奥さんになっていったので、無理して娘には短大に行かせた。だから、お金持ち以外とは結婚させない。家は農地改革で財産（どうやら農地らしい）がある、どうして息子に嫁が来ないのかわからない。（娘さんが農家に嫁ぐというのはと聞いたら）娘には、絶対私と同じような農作業はやらせない。農家ならお手伝いさんがいるところでなければー。」

0．はじめに　少子化は「日本社会の構造」に関わる問題

親の意識が変わらない例

3．地方の仲人調査（小澤千穂子大妻女子大名誉教授）から。「あるお嬢さんがいる家に、いい人だけど契約社員の男性の釣書を持って行った。親から、ーなんでうちにこんな男を紹介するんだ、もっと高収入の男性を持ってこい、そうでなければ絶交だーと言われた。収入の高いどころか正社員独身男性なんて、こんな地方にもう残ってないのに。昔はよかった」

4．地方独身者調査　「ある女性とつきあいだして、親に紹介したら、ーあそこに住んでいる人とつきあってはいけないーと反対された。」

5．学生アンケートより「母親から、ー奨学金を借りている人とつきあってはいけませんー　と言われた」（今は半数の大学生奨学金貸与）

はじめに　少子化対策のタブー

■　少子化対策のタブー

＊　収入の相対的に不安定な男性が結婚相手として選ばれない

＊　日本では、結婚が出産の前提である

少子化対策に必要なこと

「収入が不安定な男性と結婚する女性を増やす」

これにつながる政策を行わなければ、少子化対策にはならない

（保育所を作れば　未婚女性は収入が不安定な男性と結婚するのか？）

＊欧米は、収入が不安定な男性でもパートナーが得られる　→　以下詳述

１．少子化の日本的特徴

１－０　諸外国の日本を見る目

日本の少子化の進展

合計特殊出生率１．５以下が25年以上続く、人口減少

＊　欧米のジャーナリスト、研究者

「なぜ、日本は対策をしてこなかったのか？」

←　フランスや北欧は回復傾向、ドイツなどは移民を入れる

＊　東アジアのジャーナリスト、政府関係者、研究者

「日本のようにならないために、どうすればよいのか」

←　現在、日本以上の少子化が進んでいる

1．少子化の日本的特徴
1－1．日本の少子化対策失敗の原因

＊　出産、子育て要因の日本的特徴

- 日本の少子化対策が、事実上失敗に終わっているのは、未婚者の意識に寄り添った調査、分析、政策提言ができていなかったのではないか。多様な未婚者の生の声を聞くことを怠っていたのではないだろうか。
- 「大卒、大都市居住、大企業勤務」に偏った政策が行われ、「非大卒」「地方居住」「中小企業労働者、非正規雇用者、自営、フリーランス」の声が届いていないのでは。

未婚女性の半数は非正規　→　結婚して子どもが生まれれば収入を失う。

（男女共同参画の進みが遅いのも同じ構図）

1．少子化の日本的特徴
1－1．日本の少子化対策失敗の原因

＊　日本における従来の調査、分析、政策提言の二つの問題点

- 1）欧米に固有の慣習や価値意識を、日本に当てはまるものとして前提にしたこと。
- 2）日本人に特徴的な慣習、価値意識を考慮しないこと。

1．少子化の日本的特徴
1－1．日本の少子化対策失敗の原因

1）欧米固有の慣習や価値意識の前提（後述）

①　子は成人したら親から独立して生活するという慣習
（若者の親からの自立志向）

②　女性はやりがいのある仕事についているという現実
（仕事＝自己実現意識、男女平等の職場環境）

③　恋愛感情（ロマンティック・ラブ）を重視する意識
（恋愛至上主義）

④　親の子育て責任は成人までという意識
（成人＝子育て終了）

1．少子化の日本的特徴
1－1．日本の少子化対策失敗の原因

2）日本人に特徴的な慣習、価値意識（後述）

①「リスク回避」傾向

②「世間体重視」

- ほとんどの日本人にとって、生活上のリスクを回避すること、そして、世間体を保つことの優先順位が高い。
- 結婚、子育てには「生活上のリスク」がつきまとい、結婚相手は、周りの人の関心を呼び起こし、「世間体」に直結する。
- それゆえ、日本人は、生活リスクが高く、世間体を保てないような結婚、子育て状況を回避しようとする。（特に親）

1. 少子化の日本的特徴
1－2　欧米モデル適用の陥穽

- 日本の家族意識、価値観の文化的背景の相違点

① パラサイトシングル　自立志向の弱さ
② 女性にとって、仕事による自己実現という意識の弱さ
③ 恋愛感情（ロマンティック・ラブ）の弱さ
④ 子どもの将来に対する「責任意識」の強さ
　－「子どもにみじめな思いをさせたくない」

1. 少子化の日本的特徴
1－2　欧米モデル適用の陥穽

①パラサイトシングル　自立志向の弱さ

＊　欧米、一人暮らし原則　→　結婚や同棲は経済的に楽になる手段
　（不安定収入の男性と一緒に暮らすのでも一人より「まし」）

＊　日本（そして、東アジア諸国や南欧）

- 結婚までは親と同居するのが当然
- 子（特に娘）の自立志向は弱く、特に女性の自立は不要との意識

－　日本では、成人未婚者の約7-8割が親と同居、親との同居生活は快適かつ比較的豊か

→　結婚して新しい生活を始めることは、生活水準を下げるイベント

1．少子化の日本的特徴
1－2　欧米モデル適用の陥穽

② 女性にとって、やりがいのある仕事が少ないという現実
＊　欧米、仕事を持って経済的に自立すること　　女性の自己実現
　　現実に女性差別は少ない　　女性管理職40％前後

＊　日本　女性差別が慣習として残っている（特に地方）
やりがいのある仕事についている女性　一部の女性のみ　都会や海外に逃げる
　大多数の未婚女性　非正規雇用、一般職　→
　　自立手段にならない、自己実現とならない（　←　コース制）
・　収入が高い男性志向、家計は夫の収入で賄うことは当然という意識
　　女性が職場で差別されている以上、そうならざるを得ない
＊　子どもを立派に育てることが、女性の自己実現という強い意識
（自己実現　他人からの肯定的評価、賞賛、「いいね」と言われる）

1．少子化の日本的特徴
1－2　欧米モデル適用の陥穽

③ 恋愛感情（ロマンティック・ラブ）の弱さ
＊　欧米、恋愛感情（含む一性欲の充足）が価値づけられている
・　恋愛感情、性的欲求が、パートナーを求め、一緒に生活することを動機付け　恋愛活発、同棲が多い

＊　日本、カップルの恋愛感情は重視されない（中国など東アジアも）
　21世紀以降、男女交際が不活発化
　恋人がいらないと回答する人増大している。
　夫婦でもセックスレスが増大している
　　（性欲や親密欲求は市場で満たしてもよいという意識　キャバクラ、風俗）

1．少子化の日本的特徴
1－2　欧米モデル適用の陥穽

・④　子どもの将来に対する「責任意識」の強さ
　ー「子どもにみじめな思いをさせたくない」
＊　欧米　、子どもを成人させて独立させることまで　親の責任
・　子育ての手間は子どもが成人まで。高等教育費用は原則負担しない。
　子育て費用は、子どもが小さい内で済む。
　多数の子どもを育てても、成人までであれば、見通しが立つ。

＊　日本、子どもへの責任意識強い。（中国など東アジアも）
・　高等教育（＋進学準備費用）などの費用は、親負担当然、
・　子どもに、「将来よりよい人生を送って欲しい（ポジティブ面）」「みじめな思いをさせたくない（ネガティブ面）」という親の感情に裏付けられている。

1．少子化の日本的特徴
1－2　欧米モデル適用の陥穽

＊　欧米まとめ
・　欧米の少子化対策の前提、
　①結婚、同棲前は一人暮らしであること。
　②女性は仕事で差別されず、仕事で自己実現を求める
　③恋愛が盛んで、恋愛感情があれば一緒に暮らしたいと思うこと。
　④子育ては成人すれば終了ということ
・「女性の両立支援」が効果をもつ
　子どもを育てながら働き続ける条件を整えればOK
　　→　収入が不安定な男性でも結婚できる

1．少子化の日本的特徴
1－2　欧米モデル適用の陥穽

＊　日本まとめ

①　結婚前は親と同居している。同居（依存）は、非難されることはない。

②　女性差別がある職場、まだまだ多い（特に地方中小企業）。仕事を続けるよりも、豊かな生活をし、子どもを立派に育てる方が重要と思われている。

③　恋愛感情は重視されない。愛情であれば配偶者より子ども、夫婦であれば愛情よりも経済生活を優先する。

④　将来にわたる子育ての責任がかかり、子どもの将来を優先する。恋愛感情に身を任すよりも、これから育てるであろう自分の子どもの経済条件を第一に考える。

- これらの事情があるために、「両立支援」を中心とした少子化対策は、「空振り」に終わる。

1．少子化の日本的特徴
1－3．日本社会のリスク回避（安定）志向、世間体意識

- 日本特有の社会意識

①将来の生活設計に関するリスク回避意識

- 日本人は、将来にわたって中流生活を維持することを至上命題に
- 「中流生活から転落するリスク」のある結婚はしない

将来、中流生活が送れないリスクのある可能性があると、結婚を回避し、男女交際も回避する（恋愛衰退の理由）

（恋愛、結婚、出産、子育ては日本人にとって一連のイベント）

（「奨学金を借りている人とはつきあってはいけません」）

＊　「娘」の親は特にこだわる

＊　目前の短期的リスク回避を優先し、長期リスクは考えない（財政も）

1．少子化の日本的特徴
1－3．日本社会のリスク回避（安定）志向、世間体意識

② 世間体意識 ー 「人からのマイナス評価を避けようとする意識」

- 日本社会に生きる日本人は、「世間体」を保つこと＝「人並みの中流生活」をして、周りの人からみて恥ずかしくない生活をすることが最優先事項
- 仲間集団、親戚からみてレベルが落ちたと評価される結婚、子育ては避ける。
- 特に、子どもにつらい思いをさせるような子育て環境は、恥ずかしいから避ける

「お金がないから子どもに買ってあげられない」避けたいと思う

＊ 娘の親は特にこだわる

1．少子化の日本的特徴
1－3．日本社会のリスク回避（安定）志向、世間体意識

①将来の生活設計に関するリスク回避意識

② 世間体意識 ー 「人からのマイナス評価を避けようとする意識」

「将来、結婚して、子どもを育て、老後まで、中流生活が送れない ＝ 他人に比べて見劣りがする 可能性が少しでもあれば、結婚しない。そういう人が現れるまで親元で待つ」

＊ 1990年以降、この不安が広がる → 未婚化、少子化
2020年のコロナ渦によって増幅している

2. 日本の少子化の要因
2－1. 日本の少子化の実態

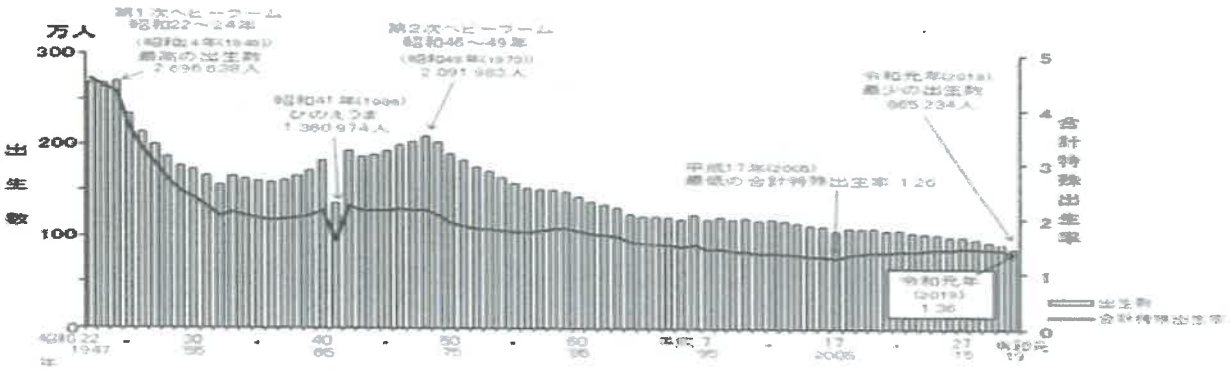
① 合計特殊出生率（女性一人当たり産む子ども数）の減少
2020年 1．34 （1973年 2．14）（2021年1．33？）

② 出生数の減少 ← 出産適齢期女性が今後急減していく
2020年 84万人（1973年 209万人 1949年 270万人）
（2010年前後でも110万人ー甘く見ていた）（2021年81万？）

③ 人口減少
2021年 約65万人（自然減）（死亡数 約150万人）見込み
（2008年より自然減開始）

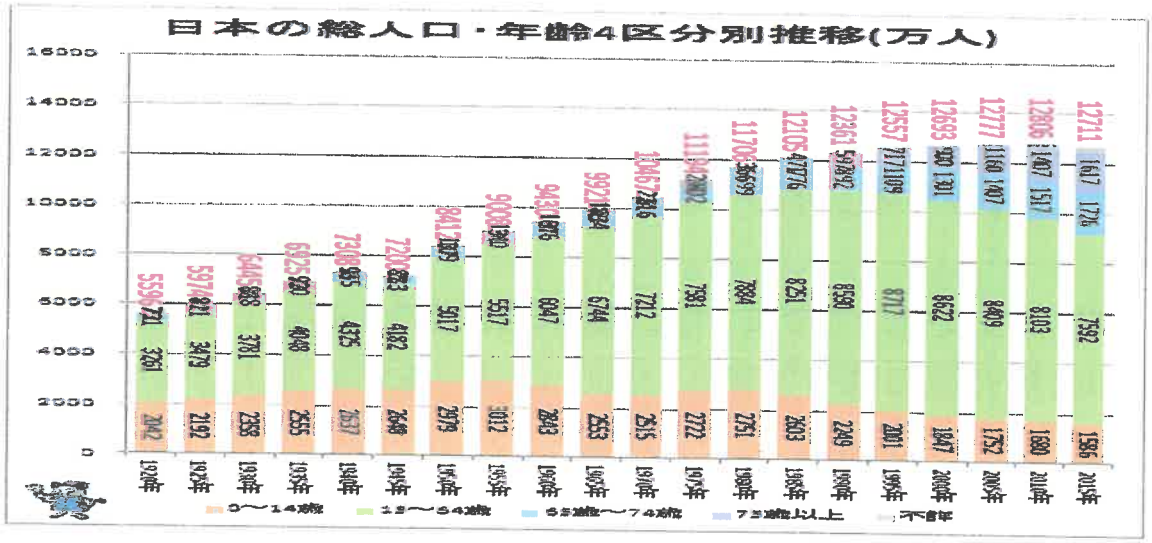
2. 日本の少子化の要因
2－1. 日本の少子化の実態
• 合計特殊出生率、出生数

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移

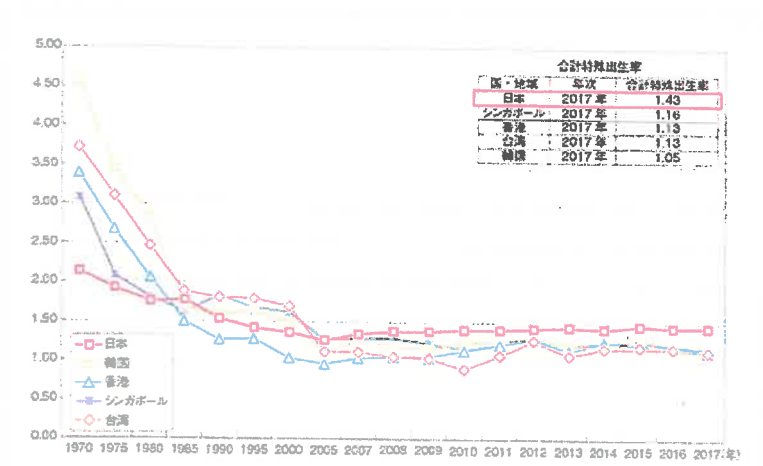


ReseMom

2. 日本の少子化の要因
2－1. 日本の少子化の実態



2. 日本の少子化の原因
2－1. 日本の少子化の実態
東アジア諸国の超少子化(アジア金融危機後、深刻化)



資料：各国・地域統計、日本は厚生労働省「人口動態統計」を基に作成。
注：台湾の1970年は1971年、1975年は1976年、1980年は1981年の数値。

最近の状況

- 韓国2020年　0. 84
  2021年　0. 81(速報値)
  総人口減少か
- 台湾　2020年　1. 07
  (2022年　2010年に続き、寅年のため低下予定)
- 中国　2020年　1. 3
  (統計の疑義があるが)

2. 日本の少子化の要因
2－1. 日本の少子化の実態

① 結婚難から男女交際不活発化（未婚率の上昇が少子化の主因）

未婚率の上昇　　1975-

男女交際率の低下　2000-

同棲率、婚外子率、極めて低いまま

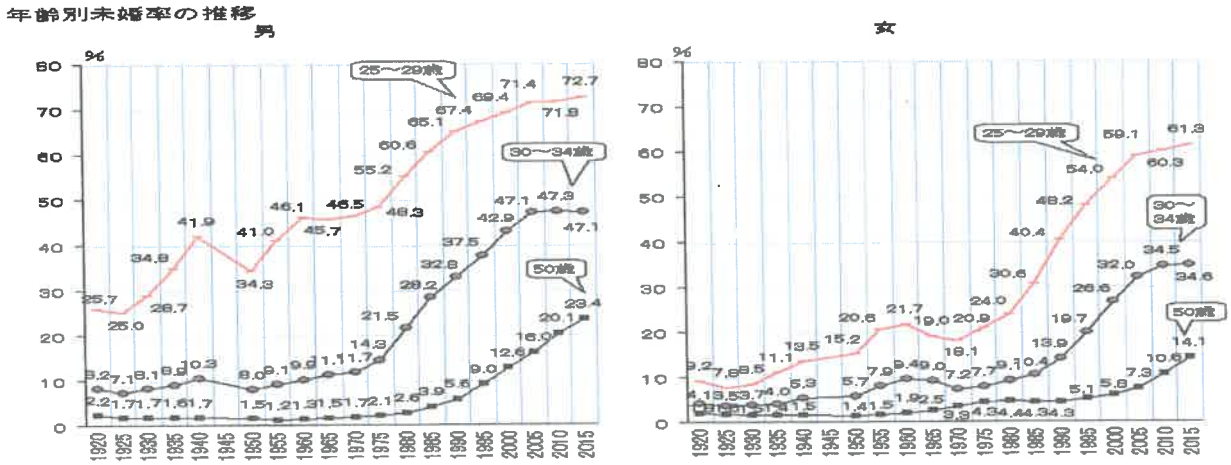
② 夫婦出生力低下（今までは、結婚すれば二人産んでいた）

平均出生児数の減少始まる　1990-（ただ、まだ1．9人は保つ）

セックスレス率の増大　　2000-

図. 未婚率の上昇

＊2020年　30－34歳未婚率　男性 51．9%、　女性 38．5%
　　50歳時点未婚率　男性 28．3%　女性 17．9%（案分処理後単純比較不可）



（注）配偶関係未詳を除く人口に占める構成比。50歳時の未婚率は「生涯未婚率」と呼ばれる（45～49歳と50～54歳未婚率の平均値）。
（資料）国勢調査（2005年以前「日本の長期統計系列」掲載）

表、男女交際の不活発化

- 表　独身者で交際相手をもつ率の変化　18歳-35歳
- （国立社会保障・人口問題研究所　出生力調査より　数字%）

男性	1992	1997	2002	2005	2010	2015
・恋人あり（含む婚約者）	26.3	26.2	25.1	27.2	24.6	21.3
・交際中異性の友人有り	19.2	15.3	11.3	14.0	9.4	5.9
女性						
・恋人あり（含む婚約者）	35.5	35.4	37.0	36.7	34.0	30.2
・交際中の異性の友人有り	19.5	15.9	12.4	12.9	11.9	7.7

性体験がある学生の減少

	1987	1993	1999	2005	2011	2017
男性						
高校生	11.5	14.4	26.5	26.6	14.6	13.6
大学生	46.5	57.3	62.5	63.0	53.7	47.0
女性						
高校生	8.7	15.7	23.7	30.3	22.5	19.3
大学生	26.1	43.4	50.5	62.2	46.0	36.7

・ 日本性教育協会の調査より

2. 日本の少子化の要因
2－1. 日本の少子化の実態

- 表　セックスをすることに「関心がない＋嫌悪している」割合
- （日本家族計画協会、男女の生活と意識に関する調査　既婚含）

男性	2008年	2014年
• 16-19歳	7. 5%	34. 0%
• 20-24歳	11. 8%	21. 1%
• 25-29歳	8. 3%	21. 6%
女性		
• 16-19歳	46. 9%	65. 8%
• 20-24歳	25. 0%	39. 2%
• 25-29歳	25. 0%	33. 0%

2. 日本の少子化の要因
2－1. 日本の少子化の実態

- 増えない婚外子

戦前　10%程度（明治時代20%）

　事実上の一夫多妻（前近代的婚外子）

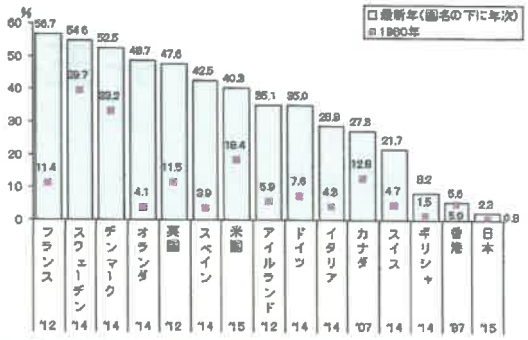
戦中・戦後で急減

「子どもにつらい思いをさせたくない」

　が関わる

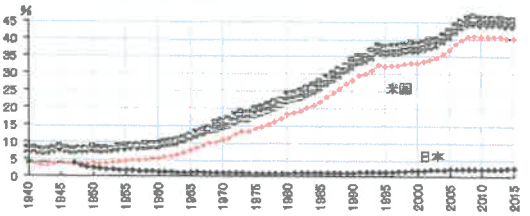
2000－　2%前後で推移

世界各国の婚外子割合



（注）未婚の母など結婚していない母親からの出生数が全出生数に占める割合である。
1960年のフランス、ドイツ、香港は、それぞれ、大都市地域、西ドイツ、1960年のデータである。
（資料）EUROSTAT Fertility Indicators、厚労省「人口動態統計」（日本）、米国所轄者資料（カナダ）、国連 Demographic Yearbook Special Issues 1999 Natality Statistics（香港）

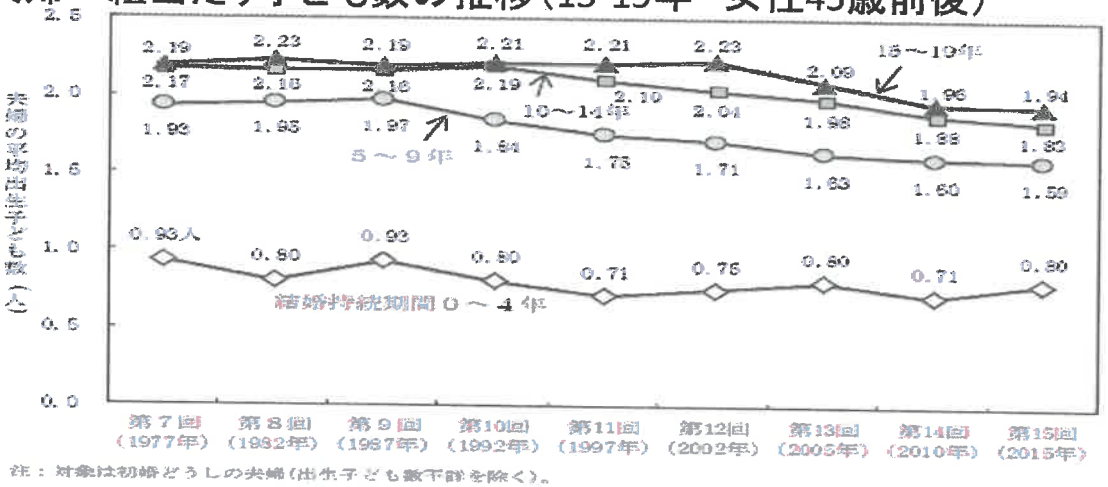
日米の婚外子（非嫡出子）割合の推移



（注）米国の値のみ表示。日本の値は図表1518参照（厚生労働省「人口動態統計」による）
（資料）米国商務省、The 2012 Statistical Abstract: Historical Statistics No. HS14
CDC, National Vital Statistics Report, Births: Final Data for 2011, Table C.
Final Data for 2014, Table B. ほか

2. 日本の少子化の要因
2－1. 日本の少子化の実態

- 夫婦一組当たり子ども数の推移（15-19年　女性45歳前後）

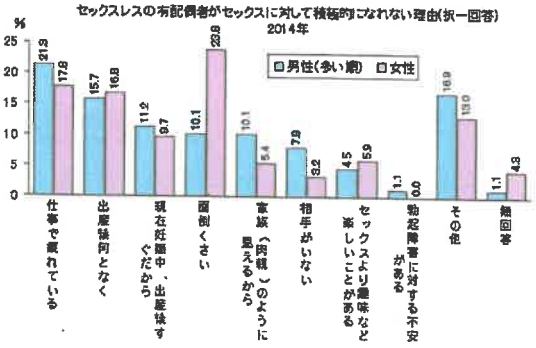


注：対象は初婚どうしの夫婦（出生子ども数不詳を除く）。

2. 日本の少子化の要因
2－1. 日本の少子化の実態

- 2000年以降のセックスレスの増大
  2020年の調査結果で50%を越える
（日本家族計画協会　16-49歳対象）
→　出産適齢期の夫婦の約半数が
セックスレス

セックスレス夫婦の動向



（注）セックスレス割合は「この1カ月間は、セックス（性交渉）をしなかった」の回答率。2001年は朝日新聞インターネット調査「夫婦1000人に聞く」、2004～2016年は第2～8回「男女の生活と意識に関する調査」による。2016年の「第8回男女の生活と意識に関する調査」は全国の16～49歳男女3000人を対象に訪問留置方式で実施された（回収率46.8%）。

（資料）（社）日本家族計画協会

2. 日本の少子化の要因
2－2。結婚の二つの意味

- 結婚の二つの意味

① 経済的側面

経済的に新たな生活をスタートさせる

② 心理的側面

好きな人と一緒に暮らす

（同性結婚の場合も同じ ②が同性だけ）

現代日本社会

①の実現が困難になり、②の面も弱くなっている。

2. 日本の少子化の要因
2－2。結婚の二つの意味

- 経済的側面からみた結婚 生活水準の変化を伴うイベント

① 独身時代の生活と比べて、結婚後の生活がよくなるかどうか

- 生活レベルの落ちる結婚はしたくないという意識

② 自分が育った以上の環境を、子どもに提供できるかどうか

- 子どもにつらい思いをさせたくないという意識

＊世間体意識が強い日本では、特に②の側面が重要である。

2. 少子化の日本的特徴
2－3. 日本の結婚難の構図

• 結婚難の構図

＊　－1980年頃まで

結婚すれば、「今以上」、「親以上」の生活が期待できた

子どもを自分以上に育てることができた

＊　1990年以降

結婚しても、「今以上」、「親以上」の生活が送れないかも、という不安、

子どもを自分以上に育てられないという不安　強まっている

2. 少子化の日本的特徴
2－3. 日本の結婚難の構図

≪1980年頃まで結婚が容易にできた理由≫

① 経済的な心配はなかった

② 出会いが容易だった

③ 恋愛へのあこがれがあった

✓恋愛にあこがれて、好きな人と出会って、「男が主に仕事、で豊かな生活」可能な経済条件があった

2. 少子化の日本的特徴
2－3. 日本の結婚難の構図

≪1980年代まで結婚が容易にできた理由①≫

✓若者男性　正社員か自営業者の跡継ぎ
✓正社員は終身雇用、年功序列賃金
✓自営業は、政府によって保護
＊若年男性の稼ぐ収入　安定して増える見通し→　結婚に当たっての経済的心配は不要

若年男性の経済格差　ほとんどない　平等社会

「男が主に仕事で豊かな生活」可能　　女性は相手が誰でも経済的な側面では安心して専業主婦になれた

2. 少子化の日本的特徴
2－3. 日本の結婚難の構図

≪1980年代まで結婚が容易にできた理由②≫

✓ 男女交際　自然な出会いと見合い

（自ら活動しなくても結婚相手候補に出会えた）

恋愛結婚の半数　―　職場結婚

（男女とも正社員、身近に未婚異性が多い、社内サークル）

ゆっくり相手と親しくなる時間的余裕があった

見合い　男性の経済格差あまりない－妥協できる

2. 少子化の日本的特徴
2－3. 日本の結婚難の構図

≪1980年代まで結婚が容易にできた理由③≫

✓ 恋愛へのあこがれ

欧米や日本のテレビ・ドラマで、楽しい恋愛が描かれ、 自分もそのような恋愛結婚ができるのではとの期待

親は、「見合い結婚」だから、仲良くない夫婦と思えた。だけど、自分が恋愛結婚したら、ラブラブの夫婦になれると信じることができた。

「あこがれ」だから、見合いでも諦められた

2. 少子化の日本的特徴
2－3. 日本の結婚難の構図

＊1990年代以降、中流転落不安

- 日本人は「生活リスクー中流生活から転落する可能性」を大変嫌う

- 子どもに豊かな生活や十分な教育を保障したいから、それが実現しないリスクが高いと思えば、結婚しない、子どもをもたない、子ども数を少なくするという選択がとられる。

理由 ① 豊かな経済環境で育った子が成人し、親と同居している
→ 自分以上の経済、教育環境のハードルが上がる
② 格差社会 若年男性の経済格差拡大
→ 収入が子どもにお金をかけるには十分ではない男性増える

2. 少子化の日本的特徴
2－3. 日本の結婚難の構図

≪近年の未婚化の理由 ≫

① 経済的な不安

② 出会いの減少

③ 恋愛へのあこがれ消失

✓ 恋愛へのあこがれが低下し、未婚の異性が周りにいないし、「男が主に仕事で豊かな生活」を送る見通しがない

2. 少子化の日本的特徴
2－3. 日本の結婚難の構図

≪近年の未婚化の理由① 経済不安≫

A 若者（特に男性）の経済力低下

若年男性 経済格差が拡大

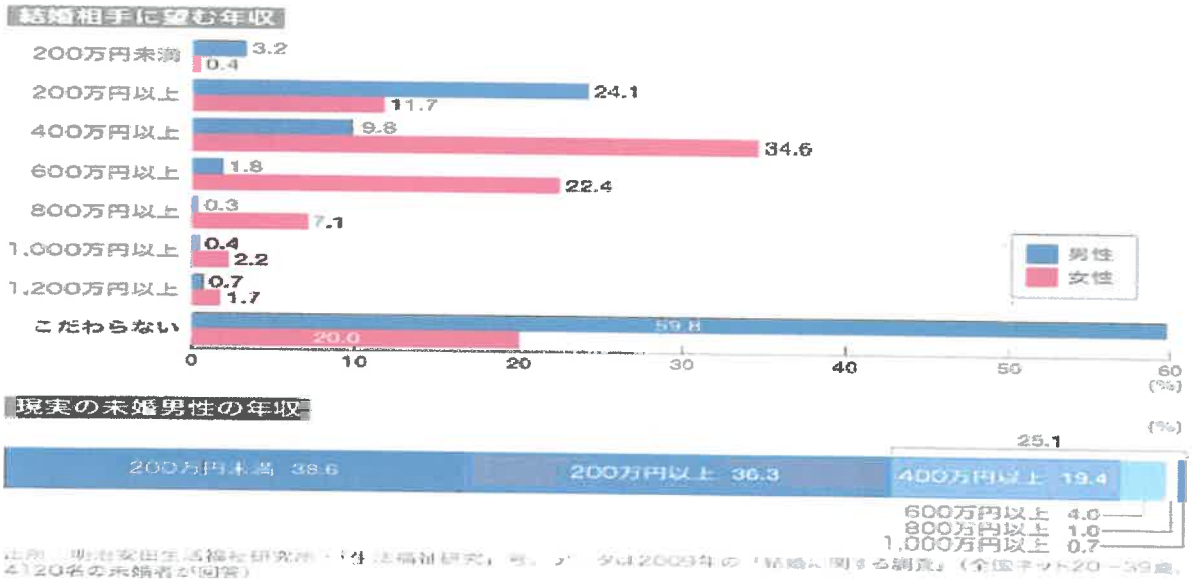
B 男性が経済的に扶養するものという意識

収入が不安定な男性 結婚相手として選ばれない

C 親と同居していつまでも待てる

パラサイト・シングル

結婚相手に望む年収と現実の未婚男性の年収の比較



＊定員が少ない　→

「バスに乗り遅れるな」　「ではバスを諦めて歩こう」とはならない

図 6

② 朝日新聞世論調査部（2018 年 12 月調査）

（%、件）

	関係ない	200 万以上	400 万以上	600 万以上	800 万以上	1000 万以上	(N)
男性	64	18	14	2	0	1	(516)
女性	19	18	41	15	4	3	(516)

（注）対象者は 25～34 歳、ネットサンプル、男性 516 人、女性 516 人。

（出所）朝日新聞世論調査部（朝日新聞 2019 年 1 月 13 日朝刊）。

定員が足りない　→「バスに乗り遅れるな」、と早くバスに殺到　（婚活）
しかし、バスの定員は変わらない　　結婚できない人の数は変わらない
「では、バスを諦めて別の手段を探そう」とはならない

2. 少子化の日本的特徴
2－3. 日本の結婚難の構図

≪近年の未婚化の理由②　出会いの減少≫

現実に自然な出会いが減少

正社員の長時間労働（若年正社員労働時間増大）

非正規化（入れ替わり激しく、正社員との交流なし）

長期間、ゆとりをもって親しくなる機会の減少

（未婚正社員数減少、全員加入の若者組織崩壊　－　社内サークル、青年団、労働組合青年部）

＊　シャイな若者　　出会う機会がない

2. 少子化の日本的特徴
2－3. 日本の結婚難の構図

≪未婚化理由③　恋愛へのあこがれ消失≫

A　恋愛（結婚）　楽しいモデルがない

＊　恋愛結婚してるはずの親　　ラブラブではない

＊　恋人がいる人へのやっかみ、

B　恋愛　コストになる

＊　恋愛するのが面倒、（4割が恋人ほしくない）

＊　恋愛はお金や時間の無駄

交際意欲の低下

バーチャル恋愛で満足する人の増大

2. 日本の少子化の要因
2－1. 日本の少子化の実態

次のような関係を恋愛対象にしていますか

Aペット　B アイドルやタレント、スポーツ選手など　C アニメ、ゲーム等のキャラクターなど
D キャバクラ・メイドカフェ・ホストクラブなど　E性的サービス産業

	A	B	C	D	E	(1つ以上)
30代前半未婚男性	3.3	12.5	13.8	9.8	13.7	(30.8)
既婚男性	4.1	11.8	5.8	13.1	14.6	(28.4)
未婚女性	7.2	16.1	12.0	0.8	0.8	(27.1)
既婚女性	2.2	13.9	7.4	1.4	1.1	(19.9)

行き場を失った親密欲求、性欲求はバーチャル、買うものに

表　明治安田生命生活福祉研究所2017年実施「男女交際・結婚に関する意識調査」
ネットモニター（18-34歳　表示は30代前半のみ、サンプル10304）

暫定的結論

- 子どもに惨めな思いをさせたくない　という意識が続き
- 子どもの経済・教育環境は親が整えなくてはならないという現状が続き、
- 若年男性の経済格差が拡大したままで、
- 女性差別で、十分な収入や職業継続が難しい中で（特に地方）
- 男性が主に家計を支えるという意識が続き
- 親が多くの未婚の若者（特に女性）を経済的に支えており、
- 将来の大きな経済成長が望めない（と信じられている）限り

日本の若者は子どもを多く産み育てようとは思わない。

↓

＊＊「収入が不安定な男性をどのようにして結婚までもっていくか　そのような男性と結婚しても大丈夫という女性をどう増やすか」にかかっている。

地方の「婚活支援団体」はこれに腐心している。

3. このまま進むと

少子高齢化は、日本の経済・社会が変化しているのに、制度、慣習、意識がなかなか変わらないため

「収入が不安定な男性」の結婚を推進するために必要な施策

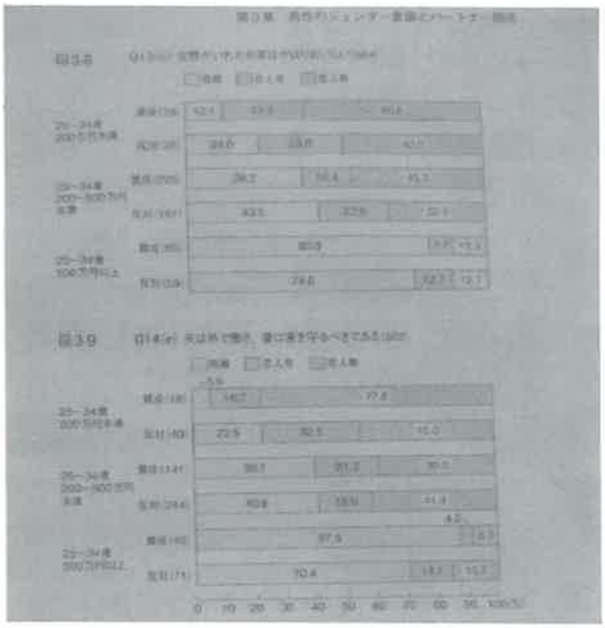
1. 男女共同参画の更なる推進
「男は仕事、女は家事」に反対する低収入男性は結婚しやすい
（高収入男性は、効果なし） 次ページ

2. 多様な家族を認める（夫婦別姓、同性愛カップル）
跡継ぎ女性　婚活で婿養子を求めるが、そんな男性ほとんどいない
→　別姓を選択できれば結婚相手が広がる
レズビアン女性、子どもを育てているカップル、日本でも増加

3. 社会保障による下支え
結婚生活を始める事への経済支援
子どもを育てている事への経済支援（高等教育の学費等まで）
ひとり親支援

男性調査から

- 男女共同参画意識が高い（「女性が入れたお茶はやはりおいしい」「男は仕事、女は家事」に反対する）ほど、収入が低い男性でも結婚している人が相当数出てくる。
- （2004年男性意識調査）
- 出典『変わる男性意識』新曜社



3. このまま進むと

好事例

① 人生相談（読売新聞から） 30代女性、「非正規の男性との結婚を親に反対されている。私が正社員だから大丈夫と言っているのに」

インタビュー調査から、二人とも非正規だけど、オタク同士で楽しく生活できそうだから結婚した

② 農家の嫁では、女性は集まらない。「農家の共同経営者」

例 北海道・町 牧場の共同経営者、結婚後住まいは親と別で成功

例 四国・男性 「うちは農家だから、子どもが生まれたら私が面倒みるから、外で存分に働いてよいよ」 と口説いて結婚

③ 農業をしたい男性、都会の公務員を辞めて、婚活で地方の農家の跡継ぎ娘と結婚

3. このまま進むと

コロナが格差を拡大し、少子化を加速させる

- コロナ禍 雇用格差を拡大させている

テレワーク階級、株を持つ人、年金生活者 影響なし

正規の公務員、大企業勤務者 給料は維持

VS

サービス業に従事する不安定雇用者、フリーランス、自営業

ますます将来の生活に不安が 希望格差の強化

＊ 結婚後の生活、出産後の生活に対する不安意識 増大

不安定就労で職を失う女性の増大 結婚相手への選別 強まる

3. このまま進むと

- 親同居未婚者の中高年化　20年後の最大の社会問題（80-50問題）

（都の審議会で発言したら、ある都議から「地元の人から、未婚中年の息子や娘が同居しているけど、将来どうしたらよいか」よく相談されたと発言）

2015年　35-44歳の中年親同居未婚者、約300万人

今はよいけれどもーーー、親が亡くなった後どうなるのか？

誰も分からない　ー　今まで前例がないから

経済的問題　親なき後の自立生活困難になる人の増大（主に女性）

心理的問題　孤立（世間体社会ー主に男性）

無縁死の増大（現在年3万人程度　将来何十万人　）

将来に絶望する独身者の増大（誰も家族がいない）　「無敵の人」

3. このまま進むと

- 50代の婚姻状況 2020年国勢調査（不詳は案分処理されている）
-

	男性			女性		
	有配偶率	未婚率	離死別率	有配偶率	未婚率	離死別率
50-54歳	65.5	26.6	7.9	70.2	16.5	13.4
55-59歳	69.2	21.6	9.2	72.3	12.2	15.5
	有配偶者	未婚者	離死別者	有配偶者	未婚者	離死別者
50-54歳	288万	117万	35万	305万	71万	58万
55-59歳	273万	86万	37万	287万	49万	61万

3. このまま進むと

- 50代独身者（未婚離死別含む）調査（山田科研費、2022年2月ネットサンプル　1126ケース）
- 表１２「将来、高齢になって下記のような不安がありますか」の回答（全体、%）

	大いにある	ある	あまりない	ない
１．経済的に十分な生活ができなくなる	４５．６	３１．５	１４．３	９．６
２．十分な介護が受けられなくなる	４２．２	３６．９	１２．９	８．０
３．孤立して寂しい思いをする	３４．２	３４．３	２０．４	１１．１
４　孤独死してしまう	４１．７	３３．０	１５．７	９．５

特に、子どもがいない女性、低収入の男性の不安が大きい。

3. このまま進むと

- 対策はあるのか

二つの対策が必要

① 若者に結婚しやすい条件を整える

「経済的安心」どんな仕事についていても、誰と結婚して子どもを育てても、将来中流生活が送れる保証を

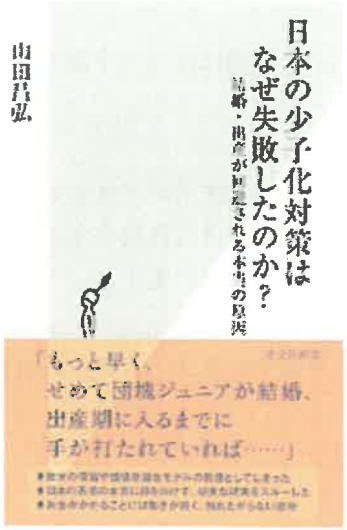
結婚、恋愛サポート　特に収入が不安定な男性に対する支援

② 中高年独身者が孤立せずに生活できる条件を整える

中高年独身者の居場所作り

（中高年婚活、グループホーム）

ご清聴ありがとうございました



©（山田　昌弘）
本資料は山田　昌弘 氏の著作物になります。著作権との関係上、著作権法で認められた私的使用のための複製（第３０条）等や学校その他の教育機関における複製（第３５条）等以外の使用は許諾されておりません。この範囲を越えた利用をする場合は著作権者からの許諾を得てください。

全国市町村国際文化研修所